

# 岩手大学における 復興への取り組みについて



『がんばろう岩手』

2011年 7月 4日

藤井 克己  
岩手大学長

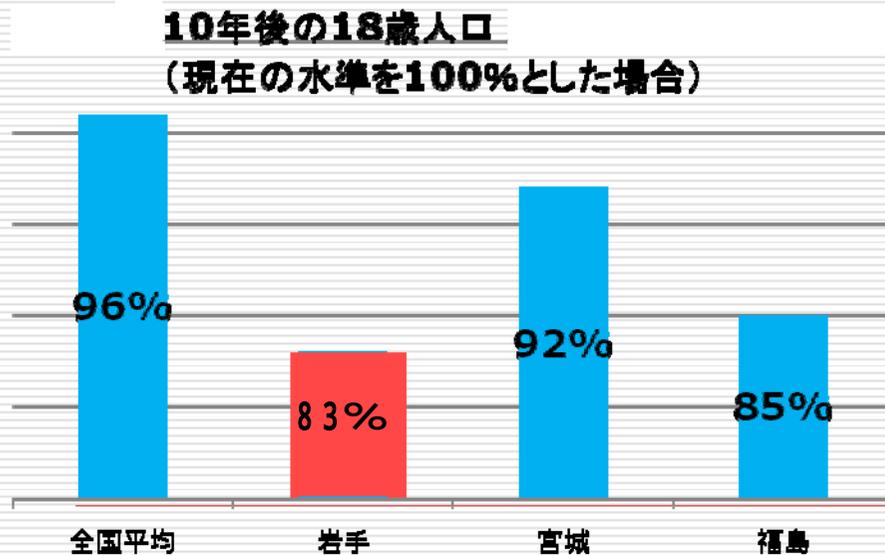
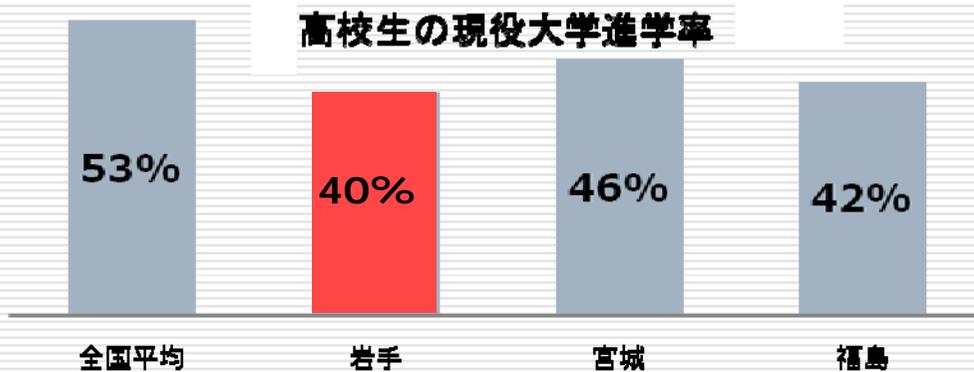
# 大震災発生('11.3.11) ~ 復興対策本部立ち上げ('11.4.1)

---

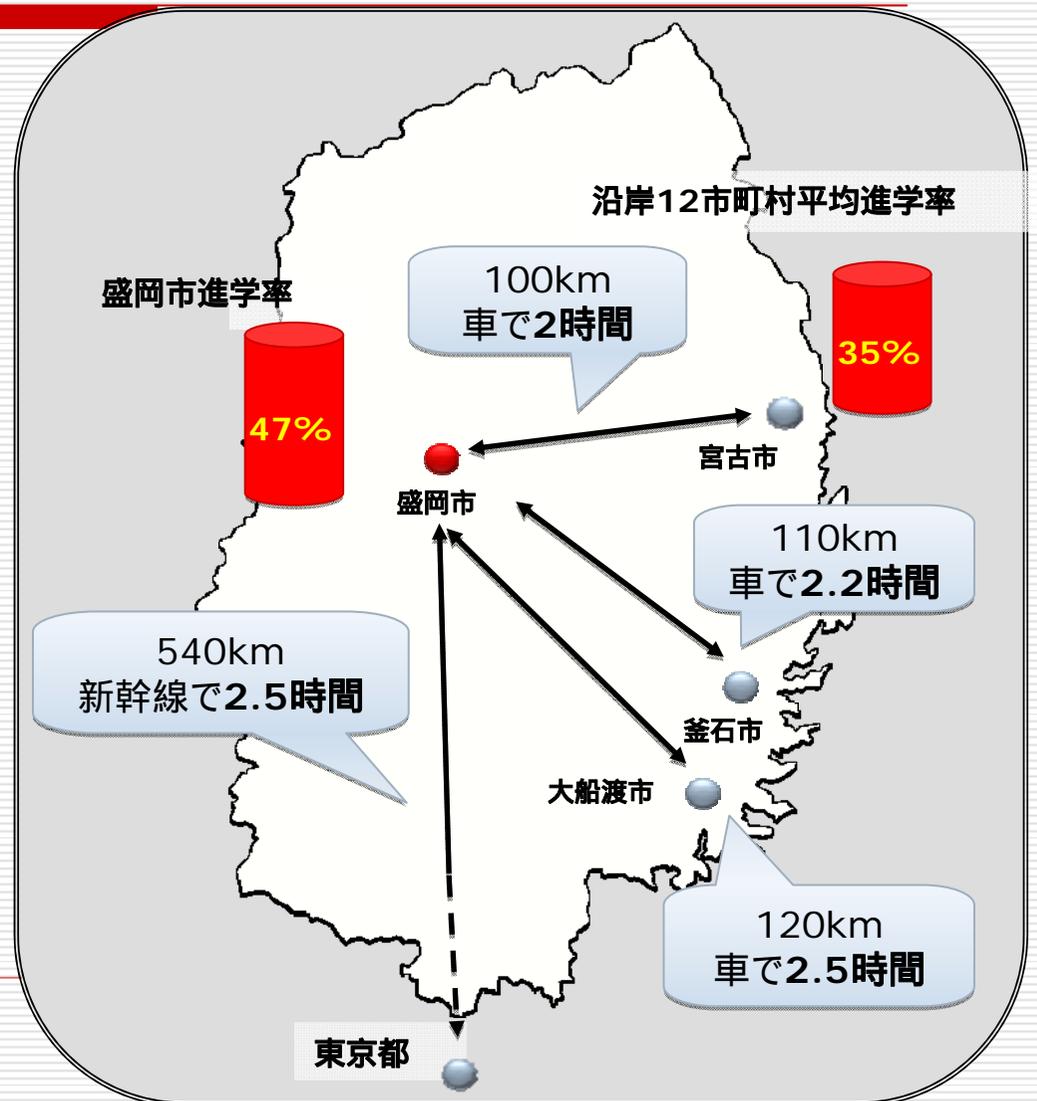
- 被災状況、安否の確認(学生, 教職員)
  - ・被災学生約300名、学部学生1名死亡
  - ・就職採用取消1名、採用遅延11名
- 学事日程の変更
  - ・後期入試延期 中止、卒業式・入学式中止、授業開始(5/9)
- 学生支援
  - ・入学料及び授業料免除(約600名、2億2千万円)
  - ・「被災学生支援募金」の呼びかけ、修学支援金の貸与
  - ・就職内定取消の学生を研究生として受入(授業料等免除)
  - ・復興支援ボランティア活動の単位認定

# 岩手県の状況

被災地の大学進学率は、他の地域より約10%低い。  
特に岩手県沿岸では…。さらに今後の若年層は…。

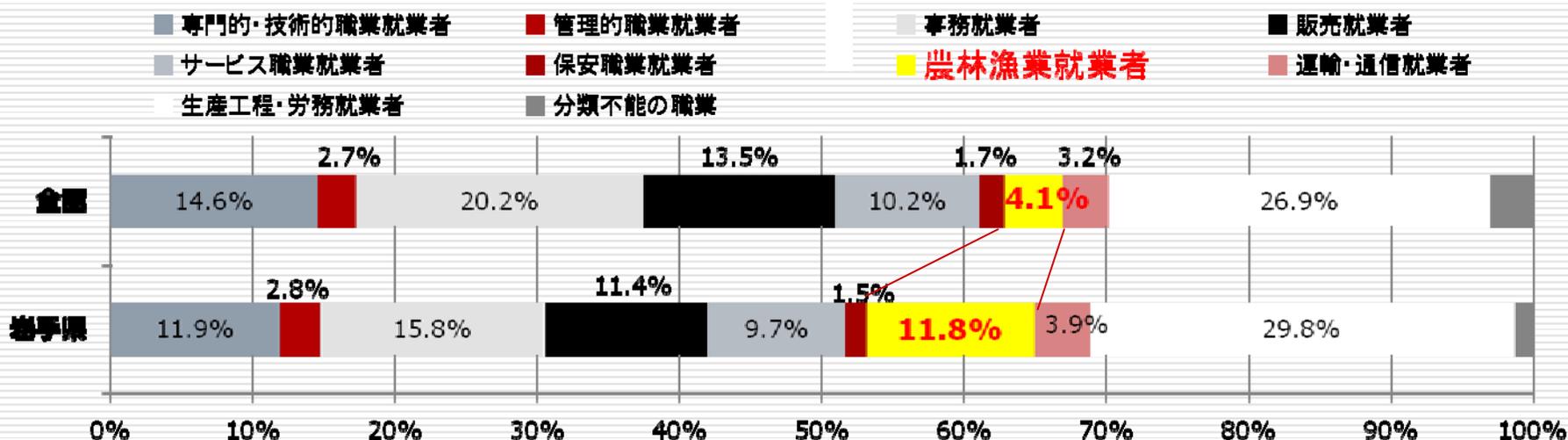


資料:「文部科学省高等教育局配付資料」



# 岩手県の状況

職業別の就業者構成割合のうち、「農林漁業就業者」は、全国平均4.1%に比べ、岩手県は11.8%と大きく上回る



資料：総務省「就業構造基本調査」

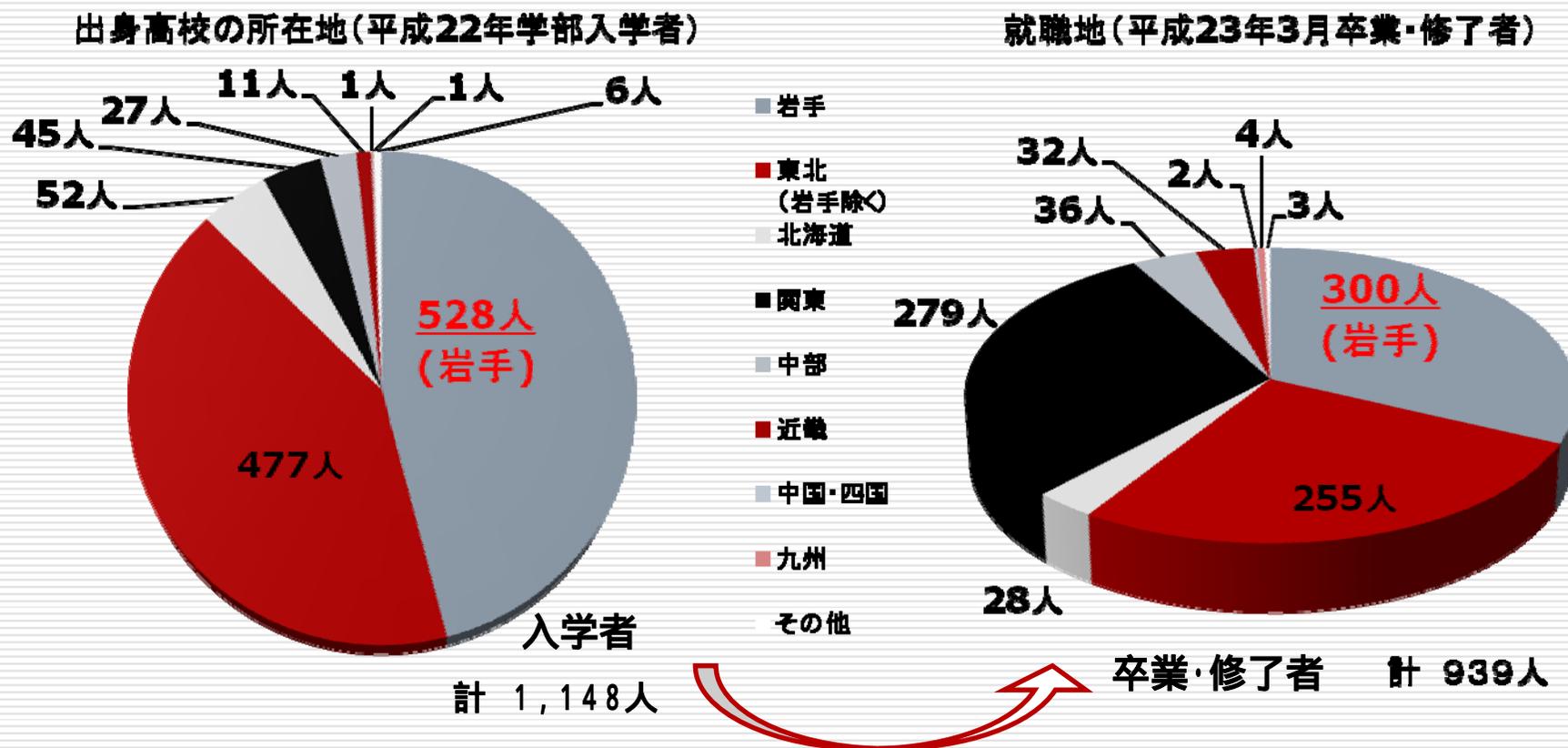
## 従事者の高齢化も懸念、今後の産業担い手の確保が必須

漁業従業者の平均年齢(2007年)

	青森	岩手	宮城	福島	全国平均
漁業	59.3歳	57.1歳	56.5歳	58.9歳	55.6歳
全産業平均	45.8歳	46.4歳	43.7歳	45.6歳	44.5歳

# 岩手大学入学者・卒業者の状況

入学者の46%が地元岩手県から、東北地域全体からは88%  
しかし、地元への就職は32%、東北地域全体へは59%



地域の産業振興のためには地元定着率の向上が課題

# 復興に関する主な活動状況

---

## □ ボランティア活動

- ・ 被災家屋・学校の清掃、避難所の運営、市街地の泥上げなど  
(学生延べ708名、教職員延べ188名)

## □ 物資支援活動

- ・ ICT機器(PC約300台など)、辞書(約1,000冊)、  
リサイクル自転車(21台)の提供など

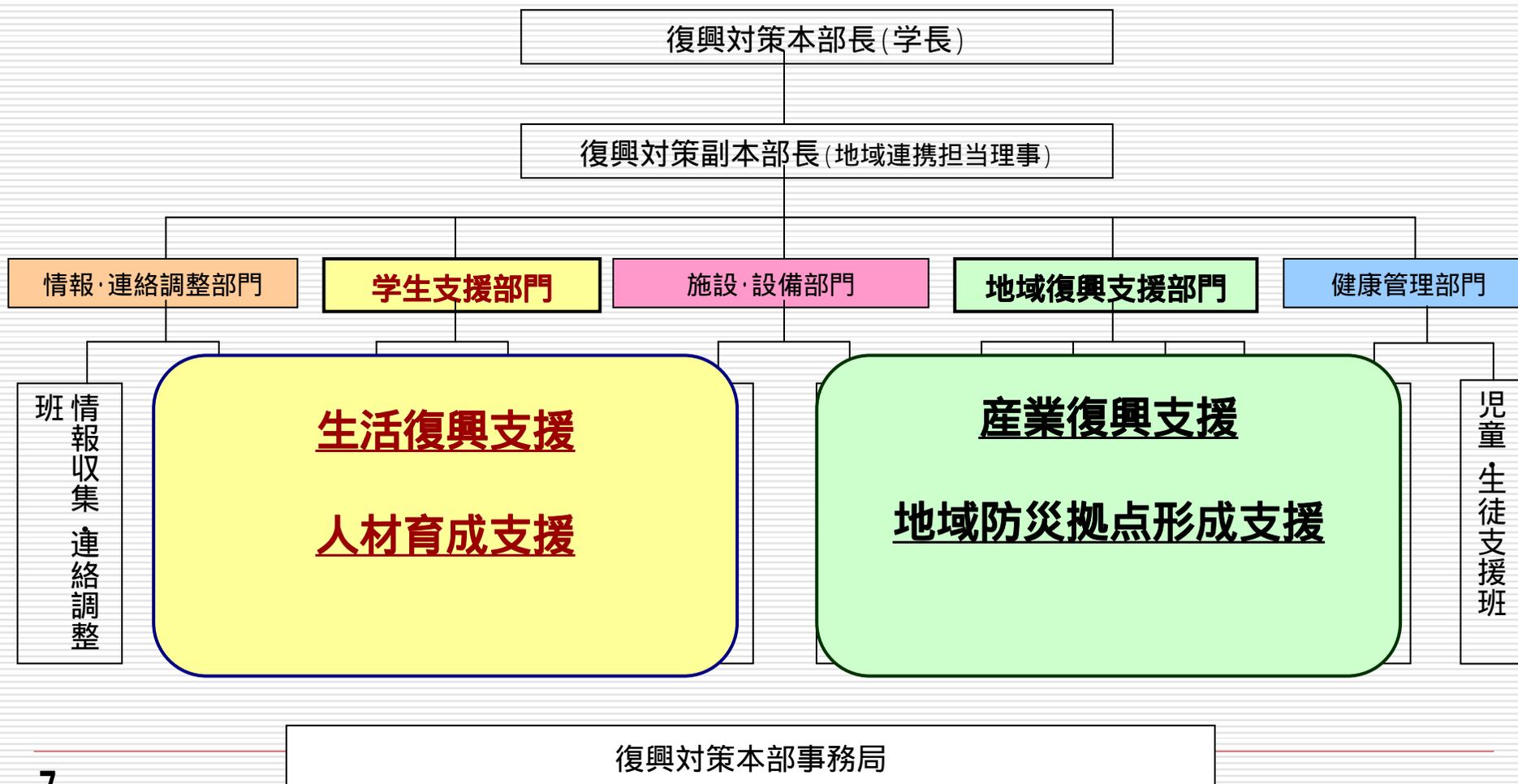
## □ 調査研究活動

- ・ 沿岸復興に係る大学独自の25研究プロジェクトを推進
- ・ 動物移動診療車「わんにゃんレスキュー号」の派遣  
(5回で129頭の犬、猫等を診療)

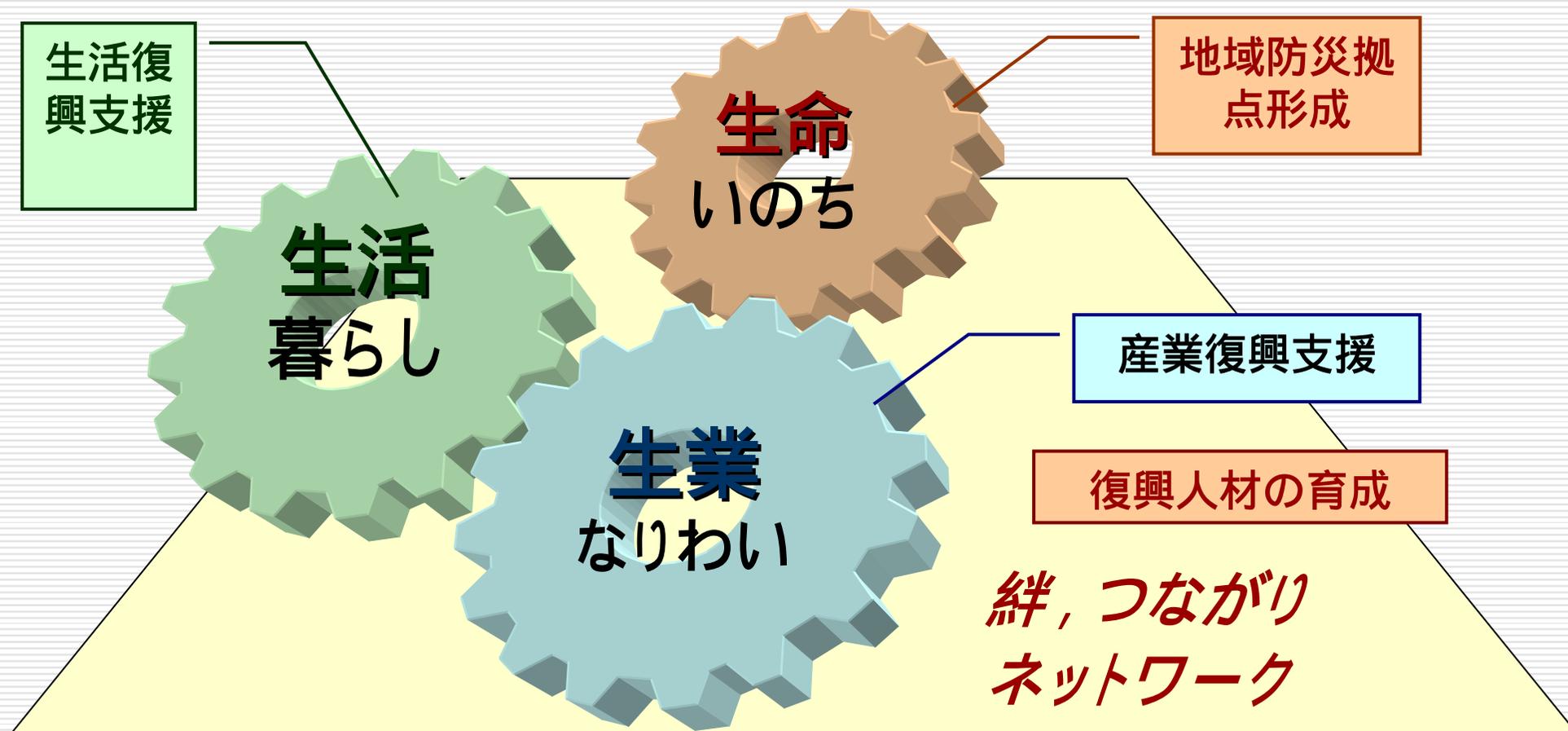


# 岩手大学東日本大震災復興対策本部(2011.4.1~)

『岩手の復興と再生に』オール岩大のパワーを



# 岩手の復興と再生のために...



# 岩手大学震災復興支援プロジェクト

岩手大学が「地域復興センター」として三陸沿岸の復興・防災を支援  
 県(「岩手県東日本大震災津波復興委員会」)・市町村・他大学等との緊密な連携により実施  
 下記の諸取組を通し、災害の復興に寄与する人材育成を推進

## 生活復興支援

### 1 ボランティア活動の推進

- ・学生・教職員の被災地への派遣
- ・ボランティア活動者への事前事後のケア
- ・被災地のニーズ収集 等

### 2 被災者の心のケア

- ・被災者のこころを心理学的立場からサポート(PTSD、ストレス、うつ、自殺、こどもの適応と成長など)
- ・音楽会・展覧会・スポーツ大会等の開催

### 3 被災動物の診療

- ・移動診療車の被災地派遣  
(わんにゃんレスキュー号)
- ・被災動物の一時預り
- ・被災農家の家畜の健康管理等の指導・助言

### 4 地域文化財の保護

- ・被災した地域文化財の救出と修復

### 5 地域コミュニティの再建

- ・被災地の復興計画とコミュニティの再建を支援

## 産業復興支援

### 1 「SANRIKU(三陸)海洋産業復興研究教育拠点形成創成事業」の推進

### 2 三陸ものづくり産業復興支援事業

### 3 農林畜産業復興支援

- ・塩害農地の生産力回復・復旧
- ・現地企業・農家と連携した新技術実用化による農畜産業振興
- ・がれき廃材を活用した建築資材開発

等

## 地域防災拠点形成

### 1 地域防災教育研究拠点形成

災害に強い施設づくり

災害に強いまちづくり

災害に強い人材育成

等



# SANRIKU (三陸) 海洋産業復興研究・教育拠点形成事業

## 目的

日本の水産業を支える三陸を復興するため、岩手大学を主体に産官学連携のもと新たな産業の創出、水産業を担う高度専門人材育成、世界のSANRIKUの復興シンボルとしての持続的な拠点形成を行う。

## 事業実施概要

釜石市にある岩手県水産技術センター、北里大学海洋バイオテクノロジー釜石研究所（津波により被災）等と共同して事業を実施

「水圏環境調査」「養殖」「加工・機能性」「マーケット」「食文化」までの1次産業から3次産業までを一貫して研究・教育することにより、産業構造の変革、新技術の開発（6次産業化の推進）、水産業を担う人材を育成

三陸地域の各拠点都市に、エクステンションセンターを設置し、多様な研究を実施するとともに、産業の広範な発展に寄与

学（岩手大学、東京海洋大学、北里大学、東京大学）、産（マリンテック釜石）、官（岩手県水産技術センター、釜石市、三陸の各市町村）のそれぞれの知見・ノウハウを活用



印はエクステンションセンター

三陸復興への事業実施スキーム

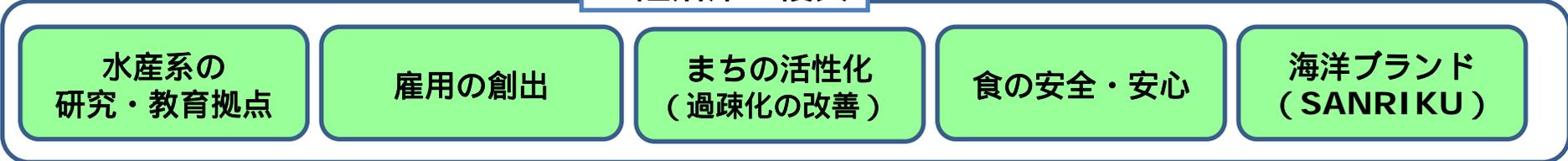
一連の研究開発により「三陸独自の6次産業化」を推進

SANRIKU (三陸) 海洋産業復興研究・教育拠点

<p><b>水圏環境調査</b> *水産資源、森林・河川・海洋環境保全</p> <p>岩手大学 東京海洋大学、東京大学、北里大学 岩手県水産技術センター</p>	<p><b>養殖の新技术開発</b></p> <p>岩手大学 東京海洋大学、北里大学、 岩手県水産技術センター</p>	<p><b>加工技術の高度化・機能性の付与</b></p> <p>岩手大学 東京海洋大学、 岩手県水産技術センター、民間企業(マリンテック釜石) 県、市町村</p>	<p><b>商品開発・マーケット開拓</b></p> <p>岩手大学 東京海洋大学 民間企業(商社)</p>	<p>三陸から世界へ食文化の発信</p> <p>SANRIKU発 オンリーワン 食材</p>
--	---	--	--	--

水産業の復興、新たな食文化の創出、市場開拓、  
水産業の地域の担い手の教育（育成プログラム）、マーケットターの育成、  
水産学研究者の人材養成（共同による大学院設置）

三陸沿岸の復興



# 三陸ものづくり産業復興支援事業

## 現状

- 3月11日の大津波により、水産業、観光業に加え、酒・味噌醤油等の食品加工業、電気機器製造業、自動車部品企業、金属加工業、セメント工業、造船業など、地域の雇用を創出していた産業が多く被災
- 地域の数少ない研究機関や産業支援機関も被災、特に三陸地域のものづくりを担ってきた(財)釜石・大槌地域産業育成センターは、津波により建物1階が大きな被害を受け、試作機や分析機器が全損(写真参照)



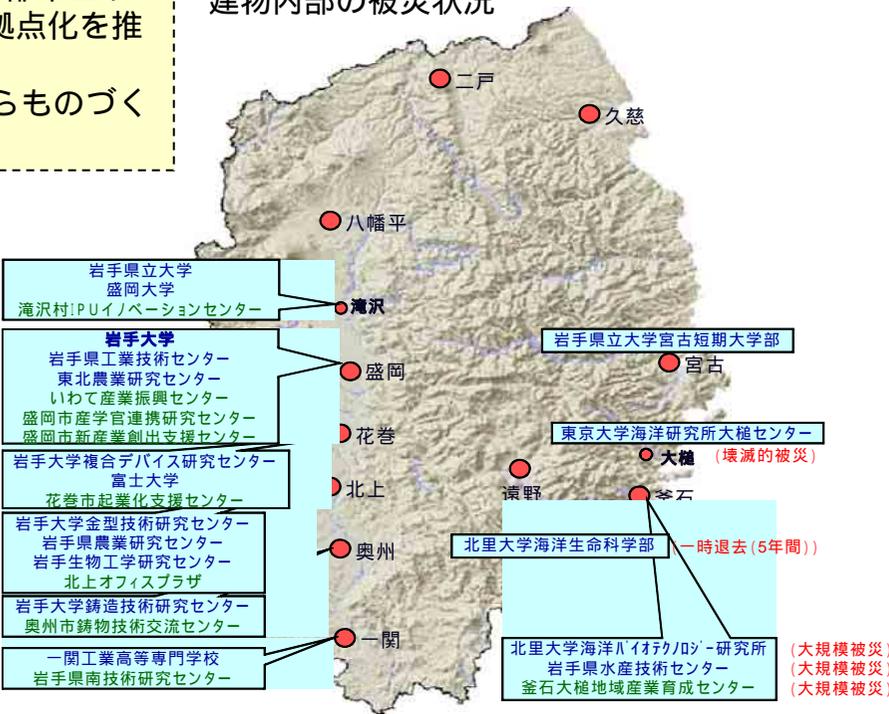
建物内部の被災状況

## 岩手大学の実績

- 三陸沿岸地域の久慈市、宮古市、釜石市と相互友好協力協定を締結し連携
- 沿岸地域の企業等とは毎年15件程度の共同研究を実施しているほか、釜石では都市エリア、地域イノベーションクラスター事業の支援を受けて、コバルト合金の生産拠点化を推進中
- 北上川流域の自治体と連携してものづくりの研究拠点と産業人材育成の両面からものづくり高度化に取り組んできている

## 三陸ものづくり産業復興の視点

1. **産業育成拠点の復興支援**
    - (財)釜石・大槌地域産業育成センターを岩手大学が三陸地域ものづくり産業支援の拠点として復興させ、5年を目途に自立化させる
  2. **新たな産業の創造**
    - 従来型産業・企業の復旧・復興に加え、ゼロベースからの産業創出のため、センター内にインキュベーション施設、試作工場を付置
  3. **産学官連携の拠点**
    - 三陸の産学官連携研究拠点としての機能を持たせ、研究開発型企業の育成も担う
  4. **ものづくり人材の育成**
    - 岩手大学が北上川流域において実施している「地域再生人材育成事業～岩手マイスター～」のシステムの沿岸部への導入を図る
- 12
- 地域の高度ものづくりコーディネート人材の育成も行う



岩手県内高等教育機関と研究拠点、産業支援機関位置図

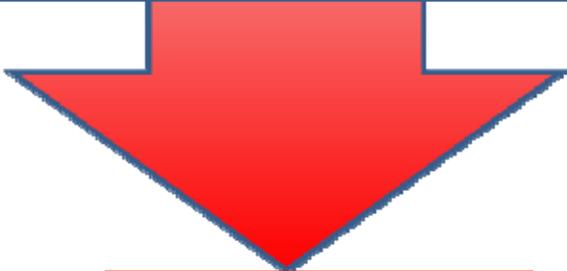
# 三陸ものづくり産業復興への事業スキーム

被災した(財)釜石・大槌地域産業育成センター（釜石市、大槌町が出資）を岩手大学に一時移管し、三陸ものづくり産業の中核産業支援機関として再構築

## センターの機能

<b>研究開発機能</b> 産学連携による応用化・実用化研究の推進 <p style="text-align: right; color: red; font-weight: bold;">強化</p>	<b>インキュベーション機能</b> 新規事業化・ベンチャーの創出 <p style="text-align: right; color: red; font-weight: bold;">付加</p>	<b>人材育成機能</b> セミナー、ものづくり夜間大学等の運営による高度技術者育成 <p style="text-align: right; color: red; font-weight: bold;">強化</p>	<b>産学、産産マッチング機能</b> 企業と大学、内陸企業と沿岸企業のマッチング <p style="text-align: right; color: red; font-weight: bold;">付加</p>	<b>経営・マーケット支援機能</b> 経営相談、金融支援、マーケット開拓支援 <p style="text-align: right; color: red; font-weight: bold;">強化</p>
---	---	--	---	---

5年を目途に再構築し、地域自治体経営に再度移管する



## 三陸地域の復興



# 地域防災教育研究拠点形成事業

## 地域防災とは

既存の防災研究機関では、地震・津波の規模及び発生確率の想定に向けた研究が行われ、**防災対策の基本方針**の策定に大きく貢献してきた。一方、こうした「自然現象から見た防災」の観点での研究成果を踏まえ、**地域毎の具体的な防災計画**を策定するためには、「地域住民から見た防災」、つまり**地域防災**の観点が必要である。

地域の地形、産業構造、歴史・文化などを考慮し、津波災害に強い**施設づくり** **まちづくり**と、地域固有の災害文化を醸成・実践・継承する **ひとづくり** を機能的に連携させた**ボトムアップ型**防災システムが、ここで提案する地域防災である。

## 事業目的

文理融合型の地域防災教育研究拠点を形成し、岩手大学がこれまで培ってきた産・官・学・住の連携による地域防災システムを構築し、**三陸沿岸での安全・安心な地域づくり** **災害文化の醸成・実践・継承** **三陸モデルの発信**を行う

## 事業実施概要

これまで岩手大学が実施してきた**地域密着型**の活動（防災体制構築への支援、防災教育など）をさらに拡充し、東日本大震災による被災地の復興に向け、「施設づくり」「まちづくり」「ひとづくり」に貢献  
地域特性に応じた防災対策と、津波常襲地帯に暮らすための知恵である**災害文化**からなる**ボトムアップ型**防災システム（三陸モデル）を構築

三陸モデルを、今後巨大地震の発生が危惧される**東南海地域**などへ展開

岩手県が構想する「**国際的防災研究拠点**（案）」の中核機能として実施

他大学、他研究機関と連携し、**相互補完的**な事業実施により効果的な成果を創出

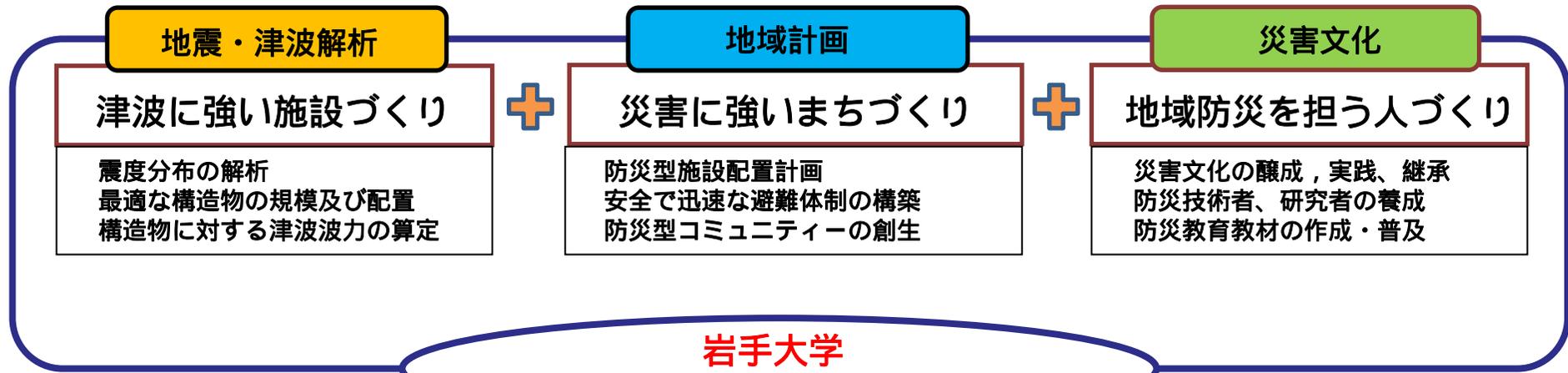
## 活動実績

- 自主防災組織の立ち上げの提案、地域における防災活動への取組みを支援
- 地域の防災リーダーとなる人材を育成（文部科学省：社会人の学び直し事業）
- 岩手県及び教育委員会との連携により、小中学生対象の津波防災教育教材を作成するとともに、沿岸地域の小中学校の防災担当教員を育成

これまでの活動により

東日本大震災において、迅速な避難により人的被害を軽減

# 安全なまちづくりと災害文化を育む地域防災拠点

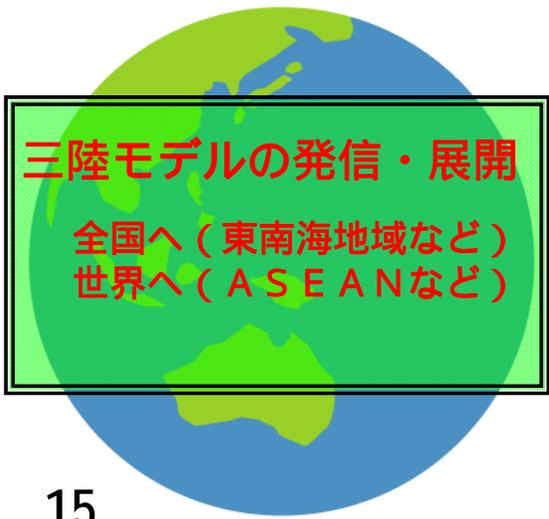


岩手大学  
地域防災研究センター

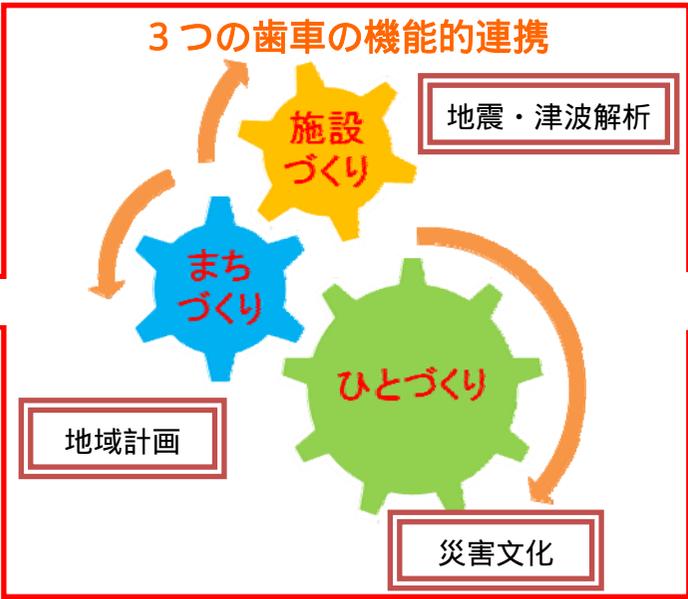
東北大学、秋田大学、弘前大学、  
国、県、市町村との連携

県、市町村、地域住民との連携

教育委員会、市町村、地域の  
防災組織との連携



三陸モデルの発信・展開  
全国へ（東南海地域など）  
世界へ（ASEANなど）




災害に強い三陸の構築  
安全・安心なまち  
地域が満足する防災  
災害文化を継承する  
地域コミュニティー



宮澤賢治

岩手大学は  
いわての”大地”と”ひと”と共に

をスローガンに

地域の拠点として産学官民と連携し

『岩手の復興と再生』のために

『オール岩大パワー』で

邁進します。



がんちゃん



旧盛岡高等農林学校本館(重要文化財)